

話し合い活動の手引き

§ 12 話し合い活動の評価

特別活動が目指す子どもの自主性や社会性の確立は、単なる知識や理解だけではなく、日常生活の中で態度や行動として現れなければならないのです。そのために、やらせっ放しにしないで、子どもに自己評価や相互評価をさせ自覚や反省を常に促すことが大切です。

◇自己評価の方法

《思考・判断・実践についての評価》…3段階で

- *話し合いのめあてを考えて話し合えたか
 - *友だちの意見のよいところを考えて聞くことができたか
 - *自分の意見を進んで発表できたか
 - *決まったことやこれから自分が何をしたらよいか分かったか
- ※このようなことを学級会ノートに印刷しておき、3段階程度で自己評価させます。

《関心・意欲・態度についての評価》…文章で評価

次に示す5つの視点を参考にさせ、文章で振り返りをさせます。

◇5つの視点

- ・一番心に残ったこと
- ・自分で一番がんばったと思うこと
- ・一番学習になったなと思うこと
- ・友だちから学ぶことができたこと
- ・決まったことへの思い

◇教師の話

終末の「先生の話」は、それまでの子どもたちの活動に対して指導と評価を行う場であり、今後に向けての価値づけ・意欲づけを行う場です。

ア) 話す際の心構え

- ポイント1…きちんと立って、教室の前面・中央で話す。
- ポイント2…笑顔で、ゆっくりはっきりと、全体を見渡しながら話す。
- ポイント3…誉めながら指導する。次の時間、活動に目が向くように話をする。
- ポイント4…具体的に、簡潔に話す。

イ) 話の内容

- ① 話し合いで決定できたこと自体への称賛
 - ・頑張って話し合いができたね、よく決めることができたね、など
- ② 司会グループへの称賛
 - ・上手に進めることができたね、協力できて素晴らしかったですね、など
- ③ 児童の称賛
 - ・めあてや提案理由を意識して発言していた児童
 - ・質の高い発言をした児童
 - ・少数意見を出した児童
 - ・折り合いをつけようとしていた児童
 - ・発言をするとき、共通点や対立点をはっきりさせた児童
 - ・議事の進行に協力的・積極的だった児童

- ・その他，いい意味で気がついた児童
- ④ 気になったことや次から気をつけて欲しいこと
- ⑤ 決まったことについて，今後の見通しをもたせる
- ⑥ 次の活動に対しての価値づけ，意欲づけ
- ・楽しい集会になりそうですね，これでまた一歩学級目標に近づくことができますね，先生も応援しますよ，みんなで協力して進めていきましょう，など

※①②⑥は必ず触れて欲しいことです。また，③の「めあてや提案理由を意識した」子どもがいたら，必ず誉めたいものです。

◇助言で育てる

学級会の進め方を身につけさせるためには，教師の適切な指導が欠かせません。しかし，その指導する時間がなかなか取れないというのも現実です。そこで有効なのが，教師の助言です。教師の助言は評価の裏返しですから，ここから子どもたちは様々なことを学んでいきます。そのことを忘れずに，学級会に釣り組んでみてください。そして，学んだことをどのくらい生かせるようになったのか，長いスパンで評価していきたいものです。